

口蓋裂とは

口腔内の天井部分(ヒダ状になっている所)を硬口蓋と言い、これが裂けている・穴が開いていることを口蓋裂と呼びます。

■ 先天性(生まれつき)

お腹にいる時の成長がうまくいかず、口が正常に形成されないことによる先天異常です。

母体のウイルス感染や栄養不良、子宮の外傷などが原因と言われています。

その他遺伝的な素因もあるとされ、わんちゃんでは短頭種の子やビーグル、ミニチュアダックス、ミニチュアシュナウザー、ラブラドルレトリバーなどの子で見られることがあります。

口蓋裂を持つ赤ちゃんはミルクを十分に飲むことができません。兄弟と比べて体が小さく、どんどん弱ってしまうため、すぐに亡くなってしまう可能性が高いです。

また、口腔の異常に留まらず、心臓や腎臓などにも先天異常が併発している可能性があります。

■ 後天性

交通事故や落下などによって口蓋裂を起こすことがあります。その場合顎の骨折や内臓の損傷なども併発している可能性があります。

そのほか、感電や火傷によるものや、重度の口内炎で口蓋まで炎症・ただれが広がり穴が開いてしまうこともあります。

《症状》

口腔内と鼻腔が繋がってしまうため、食べたり飲んだりしたものが鼻から出てしまいます。

食後にむせる、咳をする、くしゃみを連発するなどの症状が見られます。

また、鼻腔から気管を通り肺に物が入ってしまうことで肺炎を引き起こします。その場合呼吸が速くなったり、呼吸困難を来します。



《治療》

◆ 外科手術

小さい穴であれば成長に伴って塞がるのが稀にありますが、多くは全身麻酔下で穴をふさぐ手術が必要になります。

しかし硬口蓋は固く、ヒダがあるため縫合が難しいとされ、穴が大きい場合には複数回に分けて手術をすることもあります。

◆ カテーテル給餌

手術は麻酔が必要なため、生後間もない赤ちゃんや事故後で体力が低下している時にはすぐに手術に踏み切れません。それまでの間、栄養的な補助をするため口を使わずに給餌をしなければなりません。

口から胃の入口までカテーテルを入れる、鼻からカテーテルを入れるなどを行い、そこからミルクや流動食を入れることで栄養管理を行います。